

しみずこうひ で 清水港日の出地区再開発事業

受賞機関 清水市都市部拠点整備課
静岡県土木部清水港管理局

はじめに

清水港日の出地区（船溜り）は、港の中央部に位置し、清水港発祥の地である。しかし、臨海工業都市として発展してきた清水市も構造不況業界の影響を大きく受け、昭和53年度には特定不況地区の指定を受けることとなった。

これを契機に、清水市は21世紀を目指す都市ビジョンを、海、人、まちが共存する「国際海洋文化都市・マリニピア清水の創造-」と定め、産業経済の活性化と活力ある都市づくりを目指し、その具体化に取り組んできた。

事業の概要

日の出地区再開発事業は、富士山を望む風光明媚な「港まち清水」の特性を生かし、港湾緑地、交流拠点施設を中心に市民に親しまれる港づくりと、広域的な観光拠点を目指し地域の活性化を図るための事業を展開してきた。

臨海部においては、県事業として埋立による港湾緑地（イベント広場、親水緑地、駐車場等）の整備



港湾緑地内の拠点である多目的イベント広場

を、市事業として自転車歩行者道、緑道、駐車場の整備を、また、民間事業では商業・住宅共同ビル（浪漫館）の建設、業務ビルや商業等複合施設（エスパルス・ドリームプラザ）が建設され賑わい空間として地域の活性化に寄与している。

事業の特徴

特にこの再開発事業の先導的役割を担った港湾緑地の整備は、隣接するマリーナ整備と併せ、清水港のインナーハーバーのウォーターフロントに相応しい景観形成を目指し、港と都市が連携した快適な空間整備を図り、「賑わいと出会いの場」及び「憩いと安らぎの場」の創出により、年間約250万人余の来場者がある交流拠点施設となっている。

緑地計画の策定にあたっては港湾景観形成モデル事業の指定を契機に、「清水港みなと色彩計画推進協議会」や地元関係者から構成する「清水港ガーデンポート推進協議会」等を設け、住民参加型の整備手法を取り入れている。

また、誰もが利用しやすい施設の整備を目指し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた音声誘導装置等も設置した。

一方、平成11年の開港100周年を契機に、港に対する市民の期待が成熟し、市民と行政の協働による港づくりを目指し、港湾緑地等の環境美化、賑わいづくりを目的としたNPO法人が誕生するなど、「環境や市民」の世紀に向けた新たな市民活動の舞台にもなっている。



再開発事業着手前の日の出地区



再開発事業が概成した日の出地区